

会 議 録

会議名	平成26年度 第2回印西市子ども・子育て会議
開催日時	平成26年10月17日(金) 午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	印西市役所 附属棟 23・24会議室
出席委員	西村 信会長、古賀 知世委員、梅元 妙子委員、古賀 一人委員、 岩井 基委員、小島 喜美代委員、佐藤 美智代委員、服部 光子委員 計8名
欠席委員	賀川 久臣治委員、小谷 博子委員、前田 陽子委員、 計3名
出席職員等	[事務局] 保育課 伊藤 敏一、小作 公哉、泉田 隆之、竹下 和也、杉森 俊彦、 黒田 学、小森谷 幸一 [関係課] 子育て支援課 岩井 太一、斉藤 直美 学務課 井上 愛一郎、寺島 光浩、山崎 麻紀子 [コンサル] 株式会社 まち研 研究員 浜田 守、本間 洋美
傍聴者	1名
会議次第 議 題	1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 協 議 等 (1) 子ども・子育て支援新制度下における認可保育園等の保育料の改正 (案) について 【資料1】 【参考資料1】 (2) 保育の必要性の認定及び保育に係る利用調整について 【資料2-1】 【資料2-2】 (3) 子ども・子育て支援事業計画(素案)について 【資料3】 (4) そ の 他 4. そ の 他 5. 閉 会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度 第2回印西市子ども・子育て会議 会議次第 ・【資料1】 子ども・子育て支援新制度下における認可保育園等の保育料の改正(案)について ・【資料2-1】 保育の必要性の認定について ・【資料2-2】 保育に係る利用調整について ・【資料3】 印西市子ども・子育て支援事業計画(素案) ・【参考資料1】 利用者負担について(国資料) ・子ども・子育て支援新制度 なるほどBOOK(平成26年9月改訂版) ・印西市子ども・子育て会議委員名簿(平成26年8月8日現在)

会議概要・審議経過

1 開 会

- ・第2号委員の西林委員の人事異動に伴い、賀川委員が選任されたことを報告。

2 会長あいさつ

西村会長からのあいさつ

3 協議等

(1) 子ども・子育て支援新制度下における認可保育園等の保育料の改正（案）について

○事務局より説明

- ・所得税額による階層分けが市民税額による階層分けに変更となった。
- ・現行の保育料設定と比較して、階層数及び各階層における保育料は変わらない。

○質疑

【岩井委員】保護者の方のご意見はどうか？変わらないのは大事なことである。

【梅元委員】保育園利用児童の2人目以降は保育料が安くなるが、それも同じか？

【事務局】現在は、2人目は半額、3人目は全額免除という保育料だが、新制度になっても変わらない。

【梅元委員】11時間の保育時間とあるが、朝7時から預けて夜7時にお迎えだと12時間の利用になる。現状なら、延長保育料はかからないが、新制度になった場合の保育料はどうなるのか？

【事務局】延長保育の料金については、今後、国が示す部分があると思われるので、これから検討する。

【梅元委員】現在12時間預けている人は、制度が変わったことで保育料の負担が増えることになる。

【事務局】延長保育料は、市町村によってもバラバラな対応となっている。利用者の負担増にならないように考えていきたい。

【梅元委員】8時間利用の人が保育時間を超えた場合、延長保育料はどうなるのか、という部分もある。最初の保育時間の設定がずっと生きてくるのか。そうすると保育短時間で認定されたほうがいいことになる。

【事務局】8時間をどの時間帯に設定するかという問題も出てくる。

【岩井委員】保育園の集まりでも、8時間をどの時間帯に設定するのかということで議論になった。これまで同様、午前8時半から午後4時半までが基準として考え、その時間以外は11時間ということになるのでは。延長保育料をもらうことも必要である。

【梅元委員】中には、子どもを保育園に預けてリフレッシュして、時間内に迎えに来れるにも関わらず、時間外になってお迎えにくるお母さんもいるようだ。こういう話が保育園利用者の中でも聞かれ、一生懸命働いてお迎えに行っている親にとっては、公平性という観点から問題があるように思えてくる。

【事務局】保育園の適正な利用については、公平性といった観点からも、市として是正していきたい。

【服部委員】保育園は、子どものための保育園であるが、親のための保育園でもある。例えば、朝8時から8時間、朝9時から8時間、など時間設定については少し柔軟なものでもいいのではないかと。

【事務局】保育園によって、午前中は行事のための時間にするなど、保育園での過ごし方が園ごとに違ったりもするため、今後の協議の参考とさせていただく。

○協議結果

事務局案で一同了承。

(2) 保育の必要性の認定及び保育に係る利用調整について

○事務局より説明

- ・「事由」、「区分」、「認定の有効期間」の3点についてご意見をうかがいたい旨を述べ、その提案内容について説明を行った。
- ・保育園入所の流れの中の1つとして、利用調整が優先順位をつけて判断するための基準であることを説明した。

○質疑

【西村会長】この内容をよくご理解の上、よろしければご承認いただきたい。

○協議結果

事務局案で一同了承。

(3) 子ども・子育て支援事業計画（素案）について

○事務局より説明

- ・計画（素案）の内容等について、概要説明を行った。

○質疑

【古賀委員】P11（教育・保育施設）に関して、定員を満たしていない施設、逆に定員オーバーしている施設がある。施設の適正配置について、市の考えがあればうかがいたい。

【事務局】計画内容については、定員ベースで人数を計上している。定員割れしている大森幼稚園については、大森保育園、木下保育園と統合して認定こども園になる予定であるが、他の定員割れしている幼稚園についての具体的な対応等については今後検討していく。

【梅元委員】印旛高校跡地に設置する認定こども園の定員は、3園合わせたものにするのか？

【事務局】200人規模の定員を想定している。保育園部分は120人、幼稚園部分は80人を予定している。今、在籍している子どもたちはすべてまかなえる定員数となっている。

【服部委員】学童クラブについて。現在70名定員のクラブも、今後45名に変更されるのか？

【事務局】現状の定員数で70名のところは、そのままの定員が維持される。5年間の猶予期間があるので、徐々に45名定員に整備していきたい。

【小島委員】学童クラブが平成27年度に2か所増だが、具体的に話は進んでいるのか。

【事務局】平成27年度は、西の原小学校区、牧の原小学校区での増設を予定している。H28年度以降の増設分については未定である。

【小島委員】P17にあるような情報提供する場所は大切である。発達段階に応じた相談ができる場所があるといい。印西には子ども発達センターがあるが、センターだけでなく、保育園などでも相談できるという。子どもの発達について悩んでいる親も多い。小学校に上がった時にスムーズに対応することができる。

【事務局】子ども発達センターでは、年1回市内保育園などの施設を訪問している。また、千葉市では子育てコーディネーターを区ごとに置くことを検討していると聞いている。印西市では、市役所内にコーディネーターを配置しようと考えている。障がいのある子どもにどう対応していくか、市役所内でも検討を進めている。

【古賀委員】印西の発達センターは素晴らしい。幼稚園との連携も図られており、的確に指導いただいて

いる。ファイルもあり、とても役立っている。

【西村会長】近隣からみても、印西の取り組みは優れていると評判である。

【古賀委員】就学前、早いうちに発達段階を追って支援できることが効果的である。

【梅元委員】発達センターの先生が保育園を巡回してくれているが、そこでは親は相談できない。働いている親は、時間的にもなかなか相談に行けない。夜や休日などの相談日もあるといい。相談しやすい環境づくりが必要。

【事務局】今後、利用しやすい方法について検討を進めたい。

【服部委員】若い人でも車を運転できない人はいる。印西まで行くバスが少ないので増やしてほしい。相談する場所まで出かけられないという人もあるだろう。

【事務局】この件については、担当課である企画政策課に内容を伝える。

【古賀委員】バスはよく乗るが、市役所に行くバスはもっと本数がたくさんある方が利用しやすい。

○協議結果

次回も継続審議する。

(4) その他

【西村会長】国は、幼稚園、保育園について、5歳児の無償化を考えている模様。ありがたいことである。

4 その他

○事務局より連絡事項等

委員報酬と次回会議について説明。次回は11月中旬に開催する予定。12月にはパブリックコメント実施予定である。

5 閉会

平成26年度第2回子ども・子育て会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

平成26年10月28日

子ども・子育て会議委員

小島喜美代

子ども・子育て会議委員

佐藤美智代